

## 「テクノロジー」 1

### 五感を送る

小学生のとき、年賀状（新年のあいさつ）を書くのが好きでした。多いときは50枚ぐらい書いたと思います。中学2年生のときは、友だちのまねをして、アマチュア無線の免許を取りました。さっそく、無線局を開局しました。年齢も顔もわかりませんが、100kmも200kmも離れている人と話すことができ、とても楽しかったです。

年賀状で送っていたのは文字で、無線で送っていたのは声でした。今は、文字も声も、スマートフォンがあれば簡単に送ることができます。文字や声だけでなく、写真を撮って送ることもできるし、短い動画を撮って送ることも簡単にできます。

送られた文字を目で見るとき、情報の窓口は目です。ですから、文字は視覚情報です。送られた声を耳で聞くと、情報の窓口は耳です。つまり、声は聴覚情報です。写真は視覚情報で、動画は見て聞くものなので、視聴覚情報です。手紙、無線、電話、スマートフォンと私たちはだんだんと感覚を拡張してきました。

今や、スマートフォンがあれば、人間の五感、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚のうち、視覚情報と聴覚情報を送ることができます。では、次に送ることができるのは、嗅覚・味覚・触覚のうち、どれでしょうか。

次に送ることができるのは、触覚です。例えば、工事現場のクレーンの運転を想像してください。レバーをゆっくり前に押ししたり手前に引いたり、レバーを右や左に倒したりしてクレーンを運転します。クレーンを運転するということは、レバーに触れて、いろいろな力を入れるということです。クレーンのレバーを操作するロボットを、インターネットにつなげれば、会社の机から遠く離れた工事現場の機械を動かすことができます。

インターネットとロボットがつながると、そこに行かなくても、いろいろなことができるようになります。例えば、「硬い」、「柔らかい」など、触った感じを、情報として伝えることができれば、ロボットが病院で患者をやさしく抱いて運ぶことができるかもしれません。全身がディスプレイになっているロボットに3Dであなたの姿を写せば、もう1人のあなたに見えるかもしれません。そして、そのロボットと握手したら、本当に握手しているように感じるかもしれません。

文字を送る手紙から発展した技術は、人間の五感のうち、視覚、聴覚、触覚を伝えることができるようになりました。あと2つは、嗅覚（鼻）と味覚（舌）です。インターネットで、匂いや味が伝わる日が来るのは、そんなに遠くないかもしれません。

(1018<sup>じ</sup>字)

(2020.12 Written by Ryozo SASAKI)



この作品はクリエイティブ・コモンズ<sup>ひょうじ</sup> 表示 - 4.0 国際<sup>こくさい</sup> ライセンスの下に提供<sup>もと</sup> されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典<sup>しゅつてん</sup>として示<sup>しめ</sup>してください。

例) 出典<sup>れい</sup> : 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.